

みずお り

第 5 号

矢中中学校 校長 清水 洋

スクールカウンセラー 市川 諭

Q、子どもが親の言ったことを聞きません

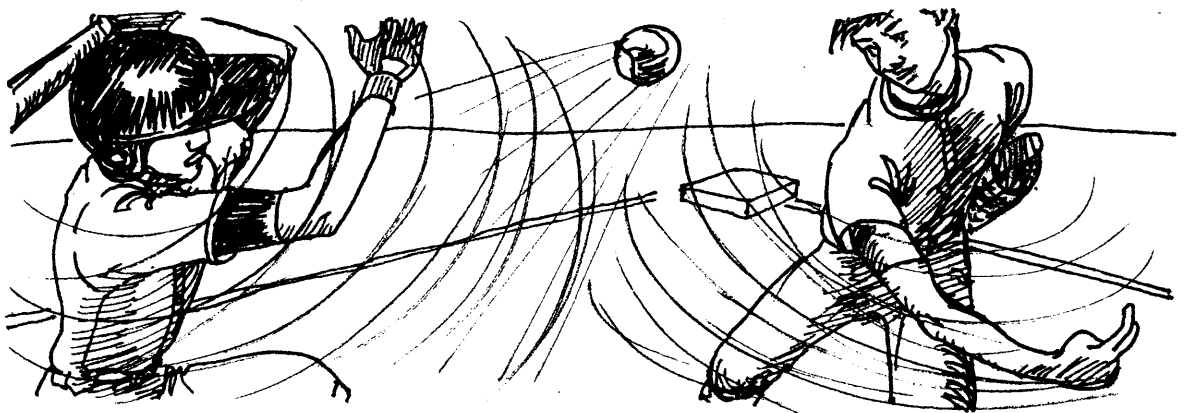
A、「100%正しい忠告はまず役に立たないと

知っておくことが必要です。(河合隼雄)

親は子に対して、とにかく正しいこと、しかも 100%正しいことを言いたくなるようです。「高校へ行きたかったら勉強しなさい。」「タバコは健康に悪いから絶対だめ。」とか言います。子どもとしては、誰がいつどこで聞いても正しいことを言われるので、「はい。」と聞くか、「うるせえ。」と無茶を言うより仕方ありません。もちろん、正しいことを言っただけとはいけないなどということはありません。しかし、それはまず役に立たないと知っておくべきであろうと思います。

たとえば、野球のコーチが打席に入る選手に、「ヒットを打て。」と言えば、これは 100%正しいことですが、まず役に立つ忠告ではないでしょう。ところが、そのコーチが「相手の投手は勝負球にカーブを投げてくるぞ。」と言ったとき、それは役に立ちますが、100%正しいかどうかはわからないと言えます。そのなかであえて何かを言おうとするとき、コーチは「その時、その場の真実」に賭けることになります。それが当たれば素晴らしいですし、外れたときは責任を取らなければなりません。このあたりに忠告することの難しさと面白さがあります。

実際に、子どもに勉強をさせたいのであれば、この子が勉強をもっとするには何が必要か、この子にとって今やれることは何かなど、こちらで色々と考え、工夫しなかったら何も言えないことに気がつきます。そして、そこには「失敗するかもしれない。」という不安や危険が常につきまとうでしょう。しかし、アドバイスは「この際はこれでいくしかない。」という決意を持ってするからこそ生きてくるとも言えます。親が 100%正しい忠告ではなく、その子にオーダーメイドされた決意の一言を伝えるのであれば、子どもの心を大きく揺るがせるであろうと思います。



【参考文献】ころ

の処方箋 河合隼雄

新潮社